

# 令和2年度宮城県NPO等の絆力を活かした震災復興支援事業補助金 (団体名) 一般社団法人SDGsとうほく (事業名) 新しい「〇〇〇」の作り方 事業 ロジック・モデル

## インプット

【リソース】  
 <資金>  
 本交付金 1,534千円  
 自己資金 248千円  
 <事務局>  
 一般社団法人SDGsとうほく・役員代表理事 紅邑 晶子  
 (一社)ふくしま連携復興センター理事  
 理事 高橋 好郎 (JOMON株式会社 代表取締役)  
 理事 高浦 康有 (東北大学大学院経済学研究科准教授)  
 監事 千葉 富士男 (一社)みやぎ連携復興センター理事  
 顧問 森 撰 (株式会社オルタナティブ代表取締役・武蔵野大学大学院環境研究科客員教授)  
 アドバイザー  
 川出 裕佳 (株式会社キャリアファクト)  
 今田 裕美 ((株)CSRインテグレーション 代表取締役)  
 畠山 茂陽 (NPO法人ファイブブリッジ理事長)  
 畠山 明 (株式会社セレクトイア 代表取締役社長)  
 渡邊 宏 (株式会社間・空間設計 代表取締役社長)  
 <団体>  
 (一社)みやぎ連携復興センター  
 NPO法人メディアアージュ  
 (一社)IKIZEN  
 お宮町地域情報編集局  
 官町商店街振興組合  
 八幡町ファンコミュニティ

## 活動

新しい「〇〇〇」の作り方事業  
 <SDGsの課題解決と持続可能な地域への変革>  
 SDGsが掲げる「誰一人取り残さない」世界の実現には、持続可能なセクターの形成が、不可欠であり、我々の世界を変革する、との考えのもと、セクター毎に課題を解決し、2030年に存在するために取り組む活動の指針をそれぞれに取り組む支援をする  
 ・課題はセクター毎に違う  
 ・組織維持と人材育成  
 事業所は(事業素材)である飯の種に出会う場  
 継続的な資金調達  
 他セクターとの出会いの場  
 新しいコミュニティの作り方を学びたい  
 お祭りやイベントを仕掛けたい  
 地域資源の活かし方を知りたい  
 ①具体的には  
 ・違うセクター(企業・商店や商店街・学校・自治会・NPO・地域団体)の出会いの場の設営  
 ・違うセクターの課題解決に向けた取り組みや事例を学ぶ  
 ・セクター毎の課題解決に向けたヒントを得  
 ・専門家のアドバイスを受ける機会  
 ・2030年の(自分たちの組織)の姿の理想を想像し、使える手段・方法を学ぶ1年目

## アウトプット

「コミュニティをデザインする手法を学ぶ公開講座」の実施  
 「新しい「〇〇〇」の作り方」の「〇〇〇」はコミュニティが抱える課題が入ります。例)新しい祭り、新しいコミュニティの形成、新規事業の種の発見、地域連携や他業種連携による自組織の活性化、外国人が多く住む町となったため新旧住民の融合、継続的な組織運営と担い手不足...等  
 事例)たとえば課題として入るものが「地域リーダー不足」であるなら、【新しい「地域リーダー」の作り方】を事例として学びます。  
 ●1年目の事業展開  
 ①一多様なセクターが集い、コンセプトのインプットをするキックオフミーティング  
 ②一地域やセクターが抱える課題「あるべき姿」&「現状」の確認(ヒアリング)  
 ③一課題の特定と原因追及し、3年後、5年後、7年後、10年後の未来像を策定する(メンタリング)  
 ④一手法や事例を学び、職能集団と共に自ら解決策を立案(メンタリング)  
 ⑤一具体的な事業実施に向け、事業資金の調達や事業計画を作る(メンタリング)  
 なお、交付金の減額により、対象となるエリアは以下の5地域の中から2地域で実施。  
 1. 気仙沼・本吉、登米エリア(気仙沼市)  
 2. 大崎・栗原エリア(大崎市)  
 3. 石巻・女川・東松島エリア(石巻市)  
 4. 仙台・多賀城・塩釜エリア(仙台市)  
 5. 名取・岩沼・村田・山元、県南エリア(名取市)  
 ⑥一報告会【セクター毎の課題の整理と事業計画発表】の開催

## アウトカム

### 1年目～3年目

◆2年目  
 ① 事業計画に沿った事業を考える②事業の資金計画をつくる③仮の事業費⑩10万円で作る事業の実施事業報告会の実施  
 ・2年目に見込まれる効果  
 事業を試し、2030年のそれぞれのセクターの理想像を具現化していくことができる。また、具体的な事業計画を立案することができる  
 ◆3年目  
 ①昨年の事業を振り返る、セクター同士の事業をお互いに見て学びにしたり意見をもらう②仮の事業資金 10万円で作る事業計画・専門家からのアドバイス③3年目の事業の実施④事業報告会  
 ・3年目に見込まれる効果  
 これまでの2年を振り返り、サポートがなくても自走できる自立へ向けた【セクター毎の理想の姿】策定計画の構築ができる。

新しい「〇〇〇」の作り方事業②  
 ②違うセクターの方々との課題や現状を聞く  
 ③各セクター毎の成功例や失敗事例を学ぶ  
 ④専門家やアドバイザーによる解決の手法を学ぶ  
 ⑤課題を解決すると>3年後>5年後>10年後に理想とする姿(どんな〇〇になるか)を策定する  
 ⑥自分たちの10年後(2030年)の理想像に向け取り組むべき解決策を見つけ出す作業  
 ⑦セクターを超え、アドバイスし合う  
 対象となるエリアは以下の5地域である。  
 1. 気仙沼・本吉、登米エリア(気仙沼市)  
 2. 大崎・栗原エリア(大崎市)  
 3. 石巻・女川・東松島エリア(石巻市)  
 4. 仙台・多賀城・塩釜エリア(仙台市)  
 5. 名取・岩沼・村田・山元、県南エリア(名取市)

### 4年目～6年目

◆4年目以降  
 ①2030年へ向けた7年計画の策定(理想の地域・団体・企業・組織)  
 ②事業資金獲得へ 助成金・事業資金の給付等を学び機会  
 ③事業をとして事業資金を獲得する  
 ④助成金を申請する  
 ⑤事業資金獲得を得た上で事業計画を見直す  
 ⑥自立に向けた組織基盤を見直す  
 ・4年目以降に見込まれる効果  
 これまでの3年を通じて次のことが得られている。  
 ・【人材育成】この事業に関わることで自らがトライセクターリーダーとなる。  
 ・【新しいコミュニティ連携】異なるセクターとの連携ができる土壌ができる。  
 ・【持続可能な組織への出発】2030年へ向けた持続可能なセクターへの幕開け。

### ～2030年

各々のセクター・団体  
 キーとなるコミュニティデザイナーが中心となり  
 ①2030年へ向けた7年計画の策定(理想の地域・団体・企業・組織)  
 ②事業資金獲得へ 助成金・事業資金の給付等を学び機会  
 ③事業をとして事業資金を獲得する  
 ④助成金を申請する  
 ⑤事業資金獲得を得た上で事業計画を見直す  
 ⑥自立に向けた組織基盤を見直す  
 【他のセクターとの連携】  
 ・トライセクター同士が連携  
 ・事業を進めることで人材育成  
 ・ノウハウの共有等  
 ・自らが核となり連携できる  
 ・非常時の対応が可能  
 ・コミュニティデザイナーとして  
 ・トライセクターリーダーとして  
 ・持続可能なセクター・地域となる  
 ・一人も取り残さない仕組み構築  
 ・常時・非常時の取り組み・連携  
 本事業は、令和3年度(2021年度)を始期とする宮城県の次期総合計画が策定され、宮城県の「将来ビジョン」に掲げる県政運営の理念「富県共創！活力とやすらぎの邦づくり」は、SDGsの考え方と、「持続可能な開発目標(SDGs)」にある「誰一人取り残さない」社会の実現に向けた行動計画に合致する。